

日本音楽知覚認知学会 令和2年(2020年)第1回理事会 議事録(案) 敬称略

日時: 2020年6月6日(土曜) 午前11時00分~12時40分

場所: Teams 使用

出席者: 小川・谷口・津崎・川上・西村・三浦・山崎・高橋・森下・松永・小堀・
三雲・吉野・松本・松井・正田・安井・三戸
(監事) 岩宮・中島・星野・大浦 (幹事) 岡野・池上・小野

議事進行: 小川会長

記録: 谷口

議題

1. ICMPC16th with APSCOM2021: 三浦・川上(組織委員会)

- ・(川上) 2021年8月開催予定のICMPC16は、新型コロナの影響で五輪が2021年夏に延期となり、バッティングすることから日本では開催できないことを、三浦からICMPCボードに伝えた。(2021年に他の地域でやってくれてもよいし、2022年に日本でやってもよい)。2021年はESCOMがやるかもしれない、その後2023年に日本になるかどうかは、ボードで協議するとの返信。
- ・(津崎) 2021年は輪番の規則通りならばESCOMではなくSMPC加入の機関での開催となるはず。ESCOMは前回ハブ方式で実施したので、その経験を活かして何かの方式で実施しようとしているのではないかと推測。日本も、新型コロナの影響を考えないといけないかもしれない。
- ・(松永) 他のところで、2021年ESCOM、2023年日本という情報が流れている。
- ・(津崎) WEBページを見たところ、ネットハブ方式が採用されるようだ。主催はシェフィールド大学で、ハブは今のところ、アゼルバイジャン、リトアニア、コロンビア、ポーランド、インドが名乗りを上げている。
- ・(川上) 日大内では、2023年に実施する根回しはしている。

2. 国際活動支援基金(ICMPC16th準備委員会立替分): 谷口(副会長)

- ・(谷口) 2021年の東京でのICMPC16th開催はなくなったが、その準備として大会サイトの作成外注、学生アルバイトによる資料収集、委員の会議費などがすでに支出されている。そのため、国際基金からの当初予算で提案した200万円の入金をお願いしたい。
- ・(吉野) 2021年にESCOMがやることは流れて2023年に日本というのが流れていないが、引き受ける可能性があるのでは入金してらよいのでは。
- ・(岩宮) 賛成だが、APSCOMのお金は使ってもいいのではないかと。⇒できるだけ分けたい
- ・(中島) できるだけAPSCOM参加者に還元して欲しいお金。
- ・(川上) もしほかAPSCOMをやるなら、そのままお金を渡すことを念頭においている。
- ・(津崎) 2021年にAPSCOMをやるのか、APSCOMもしくは音知会での判断になるのかな? とりあえずAPSCOMボードにメールを出してみるが、これまでの経験では反応が返りにくく、責任の所在

が不明確なので、意志決定がしっかりとできるかについて懸念がある。

- ・(小川) いったん、2023年にwith APSCOMをやる前提で進める。

3. 令和2年度予算案について：川上（学会事務局）

- ・春季研究発表会が中止になったため、収入が減少。J-Stage 関連で学生アルバイト代を2年分計上する（過去分の情報入力等）。
- ・(西村) 音楽知覚認知研究のJ-Stage 掲載が始まっている。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsmpc/-char/ja>

4. 会費未納者の扱いについて：川上（学会事務局）

- ・(川上) 未納者で知り合いの方にお声がけをよろしくお願ひしたい。

5. 秋季研究発表会について：谷口・松本・正田（研究発表会）

- ・(谷口) 10月24日・25日に、国立音楽大学にて、三浦先生を世話役として開催予定。音響学会音楽音響研究会との共催。開催形式については、新型コロナ関連の状況を見ながら、MA研との協議を行って決定する。

6. 総会について：小川

- ・(小川) 秋季に予定。リモートになる場合についてはまた連絡する。
- ・(津崎) 音響学会関西支部、学会総会は、リモートで実施した。
- ・(岩宮) 総会の予定が不明ならば、授賞に関しては、早めに授賞して公表してはどうか。
- ・(小川) 本日付で授賞を発表、セレモニーは可能なら秋季に行うことにする。

7. 論文賞選考規定の改訂、学会HPのPDFアップについて：三雲（学会賞）

- ・(三雲) 研究選奨・論文賞の選考委員は、理事・理事会顧問・監事以外にも拡げることが規定に反映した。また、論文賞の推薦資格者についても整備した。
- ・(津崎) 現状はこの案が良いが、今後の学会の発展・拡大を考えると、推薦者については学会員全員の投票などで選出する方法なども検討していくべきであろう。
- ・(三雲) 学会サイトに規定を掲載する ⇒ 担当：安井にファイルを送付

8. その他：なし

報告

1. 令和元年度決算報告：川上（学会事務局）

- ・(川上) 収入は予算決算で差がない。決算はJ-Stage 関連を次年度に回すことになる。積立金からは、ハンドブックの学会購入分を北大路書房に支払った。

2. 令和元年度監査結果：岩宮・中島（会計監査）

- ・（岩宮、中島）監査を行い、適切な支出で問題がないことを報告する。

3. 会員数状況報告：川上（学会事務局）

- ・（川上）3/31 付けで 266（12 名入会、12 名退会）

4. 論文賞授賞者について：岩宮（論文賞選考委員長）

- ・（岩宮）第 23 巻（2017 年）・第 24 巻（2018 年）論文賞選考委員会での選考結果、2 件を選出した。
 - ①高橋範行・大浦容子「ジャズ音楽家のテンションハーモニーの認知技能」（音楽知覚認知研究，第 23 巻，第 1 号，2017 年）
 - ②正田悠・阪田真己子・Aaron Williamon「生演奏による聴取がヴァイオリン演奏の評価に及ぼす影響：全体評定と連続評定」（音楽知覚認知研究，第 23 巻，第 1 号，2017 年）
- ・（谷口）賞状はフレームができ次第、共著者の分も合わせて筆頭著者に送付する。

5. 令和元年（2019 年度）秋季研究発表会 研究選奨授賞者について：山崎（研究選奨選考委員長）

- ・（山崎）2019 年度秋季研究発表会研究選奨考委員会による選考の結果、2 件を選出した。
 - ①北村柚葵「Williams 症候群児における音楽能力と言語スキルの発達の関係」
 - ②岡野真裕「ビートのチャンキグが 2 人組リズム維持課題のテンポ逸脱に及ぼす影響」
- ・（谷口）賞状はフレームができ次第、受賞者に送付する。

6. 令和元年度（2019 年度）秋季研究発表会 ポスター発表選奨受賞者について：小堀・三雲（学会賞）

- ・（三雲）投票に基づいて、ポスター選奨を 1 件選出した（当日授賞済み）。
 - ①松永理恵「脳内調性処理における発達初期の音楽聴取経験の影響：日本人バイミュージカルを用いた MEG 実験」

7. 「音楽知覚認知研究」の発刊と今後の予定について：西村（学会誌編集）

- ・（西村）25 巻 2 号、2020.3.21 発行予定 2 校が終わったところ、1 か月後くらいの送付。
 - 原著 1、資料（Short Report）1、寄書 1
- ・26 巻 1 号は原著 1 のみ決定、今回議事録も含む

8. 研究発表会・理事会等遠隔について（津崎・安井）

- ・（津崎）比較的早い段階にテストをしてみることも考えていたが、遠隔会議システムについては会員も慣れてきているので、それなしで遠隔開催としても問題ないと考えが変わった。
- ・（西村）それでも本番 1 週間前くらいに接続テストだけはしておいた方が賢明であろう。
- ・（正田）MA との共催で、ノウハウを持っているだろうから、乗っかるのがよいと思う。
- ・（三浦）会場は抑えてあるが、開催可能かどうかの判断はまだ不明。オンラインの可能性で CFP を書かなければならない。資料集をどうするか（MA は事前に PDF：当日用のクオリティを落としたもの

を送付、有料会員・購入者には後日高品質の PDF と紙資料を送付)、参加費も検討が必要。

- ・(津崎) 理事会が今日のように遠隔でできるのなら、通常時にも研究発表会当日ではなく、(事前に) 遠隔で実施してもよいのではないか。もしくは、対面と遠隔の併用も可能。

9. その他： なし

以上